



和

発行責任者：大阪市立総合医療センター
〒534-0021
大阪市都島区都島本通 2-13-22
地域医療推進委員会委員長 山根 孝久
<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる温かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

○ チーム医療の活動紹介

「AST (抗菌薬適正使用支援) チーム」

○ 「PFM (入退院センター)」について

○ がんの診療について 「AYA病棟新設」

○ 「がん相談支援センター」について

○ 市民医学講座のお知らせ

◆ チーム医療の活動紹介

「AST (抗菌薬適正使用支援) チーム」について

わが国では、世界的に拡大している抗菌薬等が効かなくなる薬剤耐性 (AMR) 感染症について、平成 28 年の G7 伊勢志摩サミット議長国として、国際協力を推進しています。

「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」(2016~2020 年)では、抗微生物薬について、2020 年までに経口抗菌薬 (セファロスポリン、フルオロキノロン、マクロライド) の使用量を半減させ、全体の使用量を 33%減とする目標を掲げています。つまり、抗菌薬の不要な処方を減らし、治療の失敗や耐性菌の出現を抑えるものです。

当院では、このような背景をふまえ、AST (Antimicrobial Stewardship Team) 訳して、抗菌薬適正使用支援チームを設置して、

○ 感染症治療のモニタリングとフィードバック

○ 検査の適正化、適正使用の評価

○ 適正使用の教育・啓発等を行うことにより適正な使用の推進 を行っています。

つまり、無駄な抗菌薬を減らして病気を早く治し、薬剤耐性感染症の発生を防ぎ、周囲の人々が感染しないことをめざしています。

抗菌薬は、下表のような不適切な使い方をするると新たな耐性菌が出現するリスクが高まります。

また、咳や喉の痛み、鼻汁・鼻閉などを伴う風邪症候群(いわゆるカゼ)に対して抗生物質は意味がないばかりか、有害であるにも関わらず、いまだに多くの医療機関で処方されています。

みなさんをお願いしたい事は、**必要のない抗菌薬を処方されない**ことです。そのためには、医師に自分の症状

を詳しく説明し、適切な診断を下せるようにしてください。抗生物質が処方されそうになったら、処方する根拠を聞いて、必要でないなら飲みたくないという意思表示をしましょう。

薬剤耐性 (AMR) 感染症の拡大を防ぐためにも、抗菌薬を服用する際は、医師や薬剤師の指示を守って、適切な量を適切な期間、服用しましょう。

感染症内科部長 後藤 哲志



ASTチームメンバー

【医師、看護師、薬剤師、検査技師で構成】

薬剤耐性 (AMR) の拡大を防ぐためには

抗菌薬は、医師や薬剤師の指示を守って使いましょう

- ・勝手に途中で止めない
- ・勝手に量や回数を変更しない
- ・家にあったからと言って勝手に服用しない

感冒に抗菌薬は効きません

◆ 「PFM（入退院センター）」について

入退院センター センター長 寺山 みどり

入退院センターは、2016年4月より独立部門として設置されました。

主な業務は、PFM（Patient Flow Management（入院前問診））と、緊急診療要請による患者さんのベッドコントロールです。

PFM（Patient Flow Management）とは、本来、入院後に病棟において担当看護師が実施していた問診やオリエンテーション、治療や検査の標準的な経過の説明を入院前にすることで、入院の準備を早期に始めていただくための行為です。

PFM（入院前問診）では、一定の診療科の入院予定の患者さんを対象としており、入院して行われる手術や検査に備えて、薬の服用を中止する必要がある場合の説明や、アレルギーに関すること等の聞き取り、治療や検査に関するご質問等にお答えしたりしています。

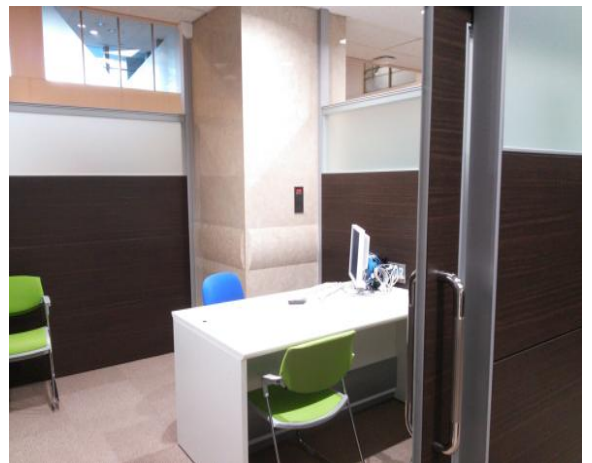
また、入院中に受ける検査・手術の予定や手術後のリハビリなどの治療内容、食事・入浴などの生活の流れを十分ご理解いただき、安心して入院生活を送っていただくための予定表（クリニカルパス）等をお渡しくこともあります。問診の際、必要に応じて栄養士や医療ソーシャルワーカーなどの多職種の方に、専門的に必要なことの説明を行っております。

多職種が早期から関わることで、安全に手術・処置を受けることができ、その後、患者さん・ご家族が安心して在宅に帰ることができることをめざしています。

患者さんから伺った情報は、入院病棟の担当看護師と共有し、入院中も安心して入院生活を送っていただけるようにしています。

以上のことから、当院でご入院される患者さんは、外来の時点でお薬手帳をお持ちいただきたいとお願いしております。

また、入退院センターのもうひとつの主な業務であるベッドコントロールは、緊急診療要請により入院が必要となった患者さんの情報を管理することで、患者さんの症状にあわせて、病棟の専門性や繁忙度を考慮したベッドコントロールを行うことでスムーズな受け入れが可能となりました。



【面談室】



◆ がんの診療について 「AYA病棟を新設しました」

副院長兼小児医療センター長 原 純一

AYAとは adolescents and young adults の略で思春期から若年成人期を表す言葉です。

当院では4月にAYA世代専用の27床の病棟を開設しました。

AYA世代は、心理社会的には自我の確立の時期、自立・親離れの時期、就職・結婚など未来に向け飛躍する時期でもあります。経済的自立が未確立で、自分らしさを求めると同時に孤独を感じやすいなど心理的問題が生じやすい時期でもあります。

このような時期にがんを始めとする難病にかかる、健康である同世代の中で、一層孤独感を強めてしまいます。

また、発病が入学や就職、結婚などの時期に重なることもあり、多様な心理社会的ニーズがあります。

一方、この世代が発病するがんを始めとする疾患は、小児が多く発病するものと、成人が多く発病するものの両方が含まれ、ややもすると小児系と成人系診療の狭間に取り残されやすいことも問題となっています。

これまでAYA世代の患者さんは、年齢に応じて小児病棟、成人病棟と別の病棟で治療を受けていましたが、AYA世代（15歳から30歳代半ば）専用病棟を開設したことで次のような利点が予想されます。

- AYA世代に特化した心理社会的支援を有効に行うことができる。
- 患者さんどうしの年齢が近く、ピアサポート（お互いに支え合うこと）が醸成されやすい。
- 年齢にとらわれるのではなく、よりそれぞれの疾患に適した医療チームが診療に当たれるなど。

AYA世代専用病棟は、この年代に応じた備品を設置したディルーム（写真①）、友達や家族と気兼ねなく会える面会室（写真②）、勉強や読書のできる学習室（写真③）を設置しています。



【写真③学習室】

また、疾患ごと専門の診療科、保育士、医療福祉士などが対応します。このようなAYA世代専用病棟は、欧米では設置が進んでいますが、国内では、静岡県立静岡がんセンターにつづき、関西では初の開設となります。



【病室】



【写真①ディルーム】



【写真②面会室】

当院は、大学病院以外では唯一地域がん診療連携拠点病院と小児がん拠点病院の両方の指定を受けています。さらに、平成30年4月よりゲノム医療連携病院にも指定されました。その特徴を活かし、成人と小児領域双方のがん医療の実績に基づき、双方の世代の狭間になりがちであったAYA世代のがん診療についても、貢献していく所存です。

当センターが取り扱うがんの種類

肺がん・縦隔腫瘍／乳がん／胃がん／大腸がん／食道がん／肝がん／胆嚢がん・胆管がん／膵がん／前立腺がん／膀胱がん／腎がん／尿路がん／精巣がん／血液腫瘍（白血病、リンパ腫など）／子宮がん／卵巣がん／脳腫瘍／骨軟部腫瘍／頭頸部がん／小児がん／皮膚がん／原発不明がん／性腺外胚細胞腫瘍／眼腫瘍／口腔がん

◆ がん相談支援センターについて

がん相談支援センターでは患者さんや様々な方から、がんに関する相談を面談や電話でお受けしています。相談内容はがんに関する悩み・セカンドオピニオン・退院後の生活・緩和ケアなど多岐にわたります。また、仕事や経済的な心配事などについて、就労専門の相談員と共に解決法を見つけるお手伝いもしています。「こんな事、相談したら笑われるかもしれない」と思わず、お気軽にご相談ください。
相談日時：9：00～17：00（受付は 16：00 まで）（土、日、祝日、12/29～1/3 を除く）



ほっこりできる場所「がんサロン」を開放しています。おしゃべりや資料閲覧、気分転換など目的は自由です。お気軽に立ち寄りお越しください。

開放日時：毎月、基本第2火曜日と第4金曜日 10時～13時
（変更になる場合がありますのでご確認ください）

開催場所：2階多目的室



受付は
総合医療相談窓口
にお越しください！



がん相談の様子

市民医学講座のお知らせ

平成30年3月10日（土）開催
市民医学講座 **これでスッキリ！尿のお悩み**
～尿失禁から前立腺がんまで～

449名のご来場、誠にありがとうございました。
「治療方法も年々進歩してきます。どのように対応していくのがよいか、市民講座で少しでも理解したいと思います。」などのご意見をいただきました。



認知症にはならへん！
なるかな？
なったらどうしよう！？



日時：平成30年5月23日（水）
午後2時～4時（開場1時30分）

場所：大阪市立総合医療センター
さくらホール



申込不要*参加無料*当日先着 250名

第12回 小児医療センター講演会
A Y A世代の未来を考える

「小児医療と成人医療の狭間で」

日時：平成30年7月21日（土）
午後2時～4時（開場1時30分）

場所：大阪市立総合医療センター
さくらホール

申込不要*参加無料*定員 250名*手話通訳あり